手術手技研修(CST)実施計画書

令和　5年 5月25日

浜松医科大学長

手術手技研修　実施総括責任者

所　属：　麻酔・蘇生学講座

職　名：　教授

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】中島芳樹・ナカジマヨシキ

※研修実施総括責任者は、准教授以上の医師で学会の指導

医等の適切な資格を有すること

【申請者】　手術手技研修　研修実施責任者（実務担当者）

所　属：　麻酔科蘇生科

職　名：　助教

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】鈴木興太・スズキコウタ

解剖学講座　研修指導監督者

所　属：　細胞分子解剖学講座

職　名：　教授

氏　名：【漢字・ﾌﾘｶﾞﾅ】瀬藤光利・セトウミツトシ

**※**印はCST事務局が記入

|  |  |
| --- | --- |
| ※CST委員会承認番号  【 R5 - 6 】 | ※生命科学・医学系研究倫理委員会承認番号 |
| １．審査対象　　手術手技研修実施計画（　□ 新規　・　☑ 継続　） | |
| ２．研修手技名  　　神経ブロックトレーニング及び頸部・背部・臀部周囲構造についての解剖実習 | |
| ３．研修実施候補日（**※**CST事務局とのスケジュール調整後に決定）  ①令和　5年　1月　20日（土）～ 令和　5年　1月　21日（日）  ②令和　5年　1月　6日（土）～ 令和　5年　1月　7日（日）  ③令和　年　月　日（　）～ 令和　年　月　日（　）  **＜**研修参加者は**参加者名簿（Excelファイル）で提示＞**  （研修日1週間前までに参加者名簿（Excelファイル）をCST事務局に提出） | |
| ４．手術手技研修の目的（教育, 研究あわせて1個以上、複数選択可）  　・教育 ：☑ a. 基本的な医療技術の習得  □ b. 基本的な手術手技、標準手術の習得  □ c. 高度な技術を要する手術手技の習得  　・研究 ：☑ a. 手術手技に関連する臨床解剖の研究  □ b. 新規の手術手技の研究開発  □ c. 医療機器等の研究開発  　・目的の詳細（100字**以内**で記載すること）  献体を用いて超音波ガイド下で色素注入を行ったのちに解剖実習を行い、神経ブロックを行う上で必要な臨床解剖の知識を深め、穿刺技術の向上を目的とする。 | |
| ５．研修内容の詳細（解剖体の使用部位、対象の術式を含め、200字**以上**で記載すること）  神経ブロックトレーニングと色素注入・解剖実習の2部構成で行なう。ご献体は2体使用する。神経ブロックトレーニングでは全身を使用するが、色素注入・解剖実習を行なうのは頸部(前面・後面、頸椎も含む)・背部(主に胸椎)・臀部・鼠径～大腿部である。   1. 神経ブロックトレーニング…全身を使用する。主に若手の麻酔科医を対象にして神経   ブロックの基本手技を習得する。  超音波ガイド下に針を刺入して生理食塩水などを注入し、目的の部位に注入されたか確認をしたり、持続注入用カテーテルを留置するトレーニングを行う。   1. 色素注入・解剖実習…神経ブロックトレーニングに引き続き、頸部・胸部・臀部・鼠   径部の神経をターゲットとして超音波ガイド下に色素注入を行い、該当箇所の解剖を行う   1. 頸部解剖実習…超音波ガイド下頸椎経椎間孔硬膜外ブロック・浅頸神経叢ブロック(色素注入)を行い、頸部硬膜外腔や神経根を含めた周囲組織への色素の拡がりを確認する。 2. 背部(胸椎)解剖実習･･･超音波ガイド下胸椎横突起間ブロック(色素注入)を行い、色素が特に傍脊椎腔まで拡がるか、他椎間までひろがるか確認する。 3. 鎖骨周囲解剖実習･･･鎖骨に付着する大胸筋・肋骨下筋の間に色素を注入(clavipectoral fascial plane block)し、周囲筋肉を解剖して色素の拡がりを確認する。 4. 臀部・会陰部解剖実習…超音波ガイド下上臀神経ブロック・陰部神経ブロック(色素注入)を行い、上臀神経・陰部神経の色素の拡がりを確認しつつ、周囲の筋肉・骨構造を観察する。 5. 鼠径部・大腿部解剖実習･･･陰部大腿神経ブロック・PENGブロック(色素注入)を行い、陰部神経の走行、大腿神経股関節枝・副閉鎖神経の走行を解剖により観察するとともに、股関節周囲の構造を観察する。 | |
| ６．研修の有用性（100字**以上**で記載すること）  若手麻酔科医を対象とした神経ブロックトレーニングは今回で5回目となり、毎回好評価を得ている。超音波解剖学を学べる上に、実際に穿刺手技を行うことができることが、カダバートレーニングの大きな有用点である。  　超音波ガイド下頸椎経椎間孔硬膜外ブロック、胸椎横突起間ブロック、上臀神経ブロック、陰部神経ブロック、PENGブロック、clavipectoral fascial planeブロックは穿刺方法も含めて比較的新しい手技であるが、主にペインクリニック治療・周術期鎮痛の方法として期待されている。  今回、穿刺・色素注入と解剖実習により、穿刺手技の習得・周囲解剖の学習・色素の拡がりの確認ができることで、これらのブロック手技の特徴や有用性について学習でき、今後の臨床診療において役立てることができると考えられる。 | |
| ７．研修で問題が生じた場合の責任の所在及び補償の有無（責任の所在には、実施総括責任者ならびに申請者を記載すること）  ・責任の所在：（学内）所属：麻酔・蘇生学講座　職名：教授　　氏名：中島芳樹  （学内）所属：麻酔科蘇生科　職名：助教　　氏名：鈴木興太  ・補償の有無：　□ 有　・☑ 無  ・有の場合の補償の内容（対処方法等）：（　　　　　　　　　　　　） | |
| ８．研修実施における倫理上の要点（箇条書きで記載すること）  　１）学生実習と異なり、医師資格を持った医師、研修医が行う点  　２）学生実習とは異なった日時、プログラムで行う点 | |
| ９．使用する解剖体の条件と研修期間等（使用する部位を含めて記載すること）  ・献体数　：Thiel　1～2　体・ホルマリン　　　体  ・使用部位：□ 頭部・☑ 頸部・☑胸部・□ 腹部・☑ 上肢・☑ 下肢・☑ 体幹  　　　　　（特定部位がある場合は必ず記入：頸椎・胸椎・臀部を解剖予定）  ・性別　　：□ 男性　・　□ 女性　・　☑ どちらでもよい  ・研修期間：　1～2　日間　／　１日の研修予定時間：7時間  ・学会・研究会等の主催の研修で：□ある　・　☑ない  （ある場合は学会・研究会名を記載すること：　　　　　） | |
| １０．使用する解剖体の要件  生前に、医師による手術手技研修等の臨床医学の教育、研究に使用されることについて、原則として意思表示し、解剖体登録者の生前同意を家族に告知し、承諾を得られている。あるいは家族がいない解剖体である。  ・解剖学講座研修指導監督者の確認： ☑ | |
| １１．使用する医療機器名（機器の管理、搬入・搬出方法も含めて記載すること）  　使用する医療機器名（機器の管理、搬入・搬出方法も含めて記載すること）  　超音波診断装置2台（富士フィルムよりレンタル 超音波診断装置はコンパクトでキャスター付きのため搬入・搬出は容易） | |
| １２．研修運営費（医療機器の費用を含む）の金額及び出所  （収入と支出が0円の予定の場合はその理由を記載すること）  外部講師謝金、色素・穿刺針・エコープローブカバー・注射シリンジ・エクステンションチューブ・解剖用メス、ガウン、手袋、帽子等  15万円程度必要、主に参加者による参加費およびCST費用の繰越金で支払う予定 | |
| １３. 利益相反の有無（有の者がいる場合は、その内容を具体的に記載すること）  　　□ 有　・　☑無 | |